

参議院選挙 6月22日公示 7月10日投票

コロナ禍で失業に追い込まれ、生活に不安を抱いている人が多くいます。

一方で、カジノ誘致が着々と進んでいます。

“いのち”と“くらし”のためにこそ税金を使うべきなのではないでしょうか。

選挙は、政治家のためのものではありません。私たちのものです。

みんなの思いを「投票」で示すことのできるチャンスを活かしましょう。



平和を願って行進する大阪自治労連婦人部（3月10日 春闘1万人総行動）

選挙は私たちのもの



平和でこそ選挙もできる！働くこともできる！遊ぶこともできる！

「見える活動」が これからの目標

大東市職労

執行委員長 谷口 美香さん(右)
書記長 佐川 ひとみさん(左)



大東市職労で、新たに委員長・書記長として活動を始めた谷口美香さんと佐川ひとみさんの二人。同じ保育士として力を合わせながら、これからの組合活動への思いを語ってくれました。

「縁」を大切に 保育士としてがんばりたい

二人の保育士になるきっかけは、とても魅力的なものでした。谷口さんは事務員として働いていましたが、小学校の恩師が働いているところで一緒に働きたいという思いが芽生え、1年で退職、保育の専門学校に入学しました。佐川さんは、体を動かすこと、歌うことが大好きで、コロナ前は友だちとカラオケに行き、ストレスを発散していたそうです。小さ

労働組合は「助け合ひ」

「はじめは、組合のことはわからないままでしたが、保育士はほとんど自治労連だったので加入しました」という二人。でも活動を続けていくうちに気づいたことがあったそうです。谷口「夫は民間で働いておりましたが、病気になるたとき、組合があったけれど助けてくれず、退職することになりました。でも私の職場では、みんなで話し合い助け合って活動をしていました。大変

いころからの夢は「歌手」。高校生の時にはソフトボールに出会った。マネージャーとして活動していましたが、その時「マネジメン」も楽しいと感じました。そんな佐川さんを見て、高校の恩師が「保育士」の仕事すすめてくれ、短大へ行くことになりました。二人とも、それぞれ「先生」という存在に「縁」があって、今の仕事になっっていることをうれしうに話してくれました。

「ただ、話せる場所があるのは大切だと感じました」

佐川「どこまで届いているかわからないけど、発信できる、声をあげられる環境があることはいいことだと感じています。コロナ禍で、なかなか集まることは難しいですが、困ったときに先輩方から声をかけてくれる環境がありました」と語ってくれました。

仲間を増やしたい

もっと仲間を増やしたい思いはあるものの、仕事の多忙さやコロ

ナ禍で集まれないこともあり、拡大の難しさを感じると言います。谷口「今は特にコロナ禍で、保育の学習会や様々な取り組みがなく、以前のように集まることできません。昔、活動をしていた頃よりは取り組みが少なくなってきたと思います。また、保育士が中央執行部の役員をしていることで難しさを感じることも。本庁職員の仲間を増やしたいと思っていますが…」

そんな中でも、SNSを使い工夫しながら活動をしています。

学ぶことで 要求が生まれる

Zoomやインスタグラムを始めたという二人。

谷口「見える活動をした。インスタやZoomを活用して、少しでも組合のことを知ってもらいたい。定年制の学習会などもほしいですが、そのためには、私たちが学ばないと要求できません」

佐川「就職してすぐの人にも、労働組合に入りやすい環境やきっかけを作れたら、もっと仲間が増えるかなと思っています。歓迎会や知ってもらえる機会を作って、組合活動は楽しいと思ってもらいたい」

谷口「それは、大東市だけでは限界があります。他市との交流もやっていきたいですね」